

臍曲がり爺の独り言

土木屋が談合とか何とか、世間でえらく非難されているなど思っていたら今度は建築の設計で偽装問題だ。

しかし、小島、内堀、皆人相が悪いよな。男はある年齢になれば顔に責任を持っていうけど、本当に人間性がもろに出ていると言えるだろう。

本当に最近人相の悪い人間が世間に多いね。はつきり言って政治家にも品格の感じられる人間が少なくなつたね。日本はどうなるだろうと心配だよ。

まああの事件の中では、姉齒がまだ一番まともな顔をしている感じだね。人相はさておいて、この件で一番たちの悪いのは誰かということ、爺は何と言つても姉齒だと思ふね。勿論関係者は全員有罪さ。

結果、あのような欠陥住宅が出来たのだしそれなりに責任は取ってもらわなければ世の中おさまらないよな。

購入者に対する責任分担は置いとくとして、今は別の角度から、そう我々技術屋としての観点から今回の事件を見てみよう。

技術屋として、姉齒は最悪だね。

歴史的に見ても、日本人の共通認識として職人、技術屋のその分野に対しての信頼感と言うものは絶対的なものがあつたはずなんだよね。

敗戦後の日本が立ち直つたのも、安かろう悪かろうではなく、品質で世界の信用を得たのが現在の日本の世界に大きな顔をして羽ばたいている一番の理由ではなかつたんじゃないかね。

ちよつと話はされるけど、明治初期に日本を訪れた外人の手記を集めた渡辺京二著の「逝きし世の面影」と言う本があるけど一度読んでみて欲しいね。日本人のアイデンティティと言うものが良く理解できるよ。

姉齒はそのような日本人の根本的なアイデンティティをぶっ壊すようなことをしたわけだ。

あの気の弱そうな顔で、家族がどうか生活がどうか言い訳をしていたが、冗談じゃない。

本当に日本全体が甘えきつてきたのかあんな話が通用すると思つていいのかマスコミもそんな話をいかにもお涙頂戴で、生まれ育つた環境がどうかやっていたが、爺に言わせれば関係ない。

技術屋は、技術で生きているし当然それに誇りを持っているはずだ。悪魔に魂を売ったとしか言いようの無い姉齒の行動は、爺には許しがたいとの思いだ。

そんな気持ちで怒りまくっている頃北海道で浅沼という二級建築士がまた偽装問題でマスコミに登場した。

なんとなくテレビを見ていたら、弁明に出てきて「偽装と違います。私は信念で実行しました」と言っている。

おつ、ちよっとニュアンスが違うなと良く聞いていると、「耐震壁を作ったから地震に対しても安全です。私の信念です」てなことを言っている。

建築の設計はあまり解らないが、なるほどプロになればそんな感覚にはなることもあるよな。

しかし本当は中途半端なプロ意識が一番危ないんだよ。

学問の世界は個人のわずかな経験での自信が通用するほどあまくないんだけどな。

確かに仕様書、基準書など絶対的なものではないし、現場にいたら明らかにそんな基準より今自分の感じている感覚のほうが絶対正しいと思うことはよくある。

しかし結論から言うと、経験していないものもろの要素は解っていないのだから、本当はえらいさんが決めた基準どおりしておくのが無難というものだ。

それでも、技術屋が信念に則ってやるのはこれはあり得るしある面、爺もそれは認める。

そこまで、ふんふんと頷きながら見ていたらその後が最悪だったね。

レポーターの、「それでは貴方は自分の設計したマンションに住めと言われたら住みますか」の質問に黙ってしまったのだ。

あーあ、なぜ胸を張って「当然住みますよ」と言わなかったのだね。

今までの強弁も全て台無しだ。

ずるい考えかもしれないが、

一つ、潰れるほどの地震は確率的にめったに無い。

二つ、言うとおりの建築基準も絶対的なものではないし、耐震壁という計算

外の要素も十分生きてくる。

三つ、住むと言いついても住むことにはめつたにならないだろう。

それに、信念に生きているのなら、それこそ自分の設計した建物の崩壊で死ぬのならそれこそ本望だろうに。

ところが黙ってしまったばかりに全てパーだ。

浅沼は、本当に頭が悪いよ。

頭の悪い奴は手抜きとか悪いことをする資格が無いんだよね。

爺なんか、頭が悪いから結局何も悪さをようしないままいままできてしまった。仕方の無いことだとおもっているよ。

結論。

正直が一番。楽な生き方だね。